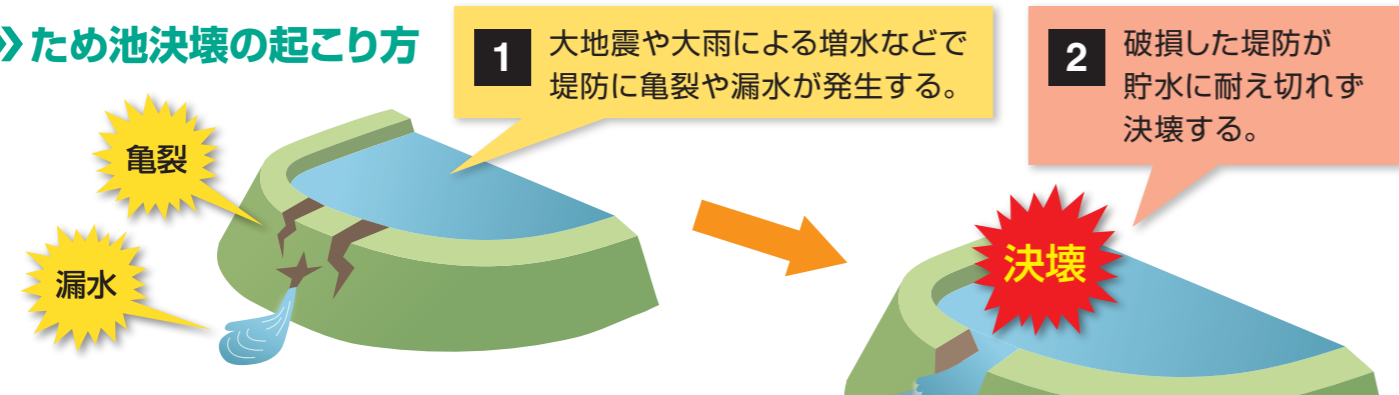


ため池ハザードマップについて

ため池ハザードマップは、満水のため池が決壊し、水が流出した場合に限定し、どの範囲まで影響が及ぶかを想定したものです。異常気象による周辺地域の河川や水路の氾濫等は考慮していないため、実際の浸水区域は、ため池の貯水量、ため池の被害の程度、周辺の土地の利用状況の変化、河川や水路の氾濫の状況により異なる可能性があります。

ため池決壊の起こり方



もし、ため池が決壊したら…

- ・大量の水や土砂が濁流となって、瞬時に押し寄せます。
- ・建物や車は押し流されます。
- ・道路や住宅地、田畑は土砂に埋まります。

氾濫シミュレーションの条件

洪水吐まで溜まっていた貯留水の全てが流出する状況を想定しています。
 ※洪水吐とは、大雨時に貯留水が堤体を乗り越えないように、堤体の一部を切り下げて流下させる施設です。
 ※異常気象による周辺地域の河川や水路の氾濫などは考慮していないため、実際には違う流れになる場合もあります。

ため池決壊のパターン

- 単独決壊：1つのため池が単独で決壊。
- 連鎖決壊：上流のため池が決壊して流出した水が、下流側のため池に流入し、連鎖的に決壊。
- 同時決壊：ため池が決壊した場合に被害を受ける範囲がほぼ同じである、複数のため池が同時に決壊。

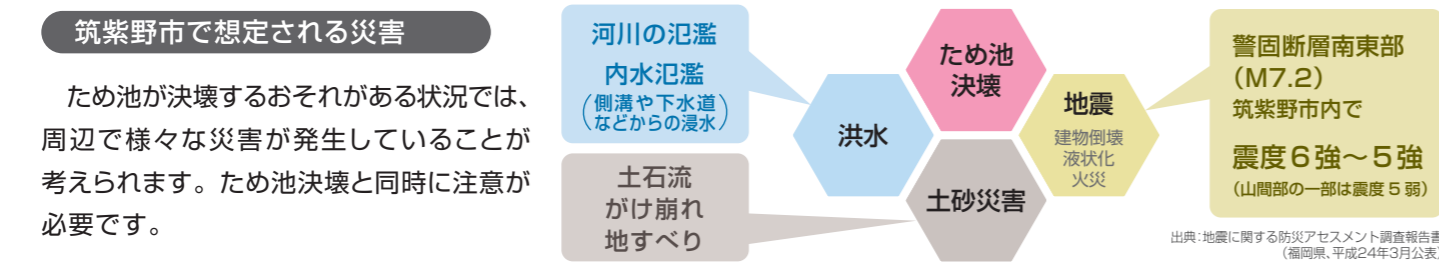
ため池決壊の原因（地震と大雨）

地震

地震による強い揺れによって、堤防に亀裂や陥没などが発生したり、地盤が液状化してため池が決壊することもあります。

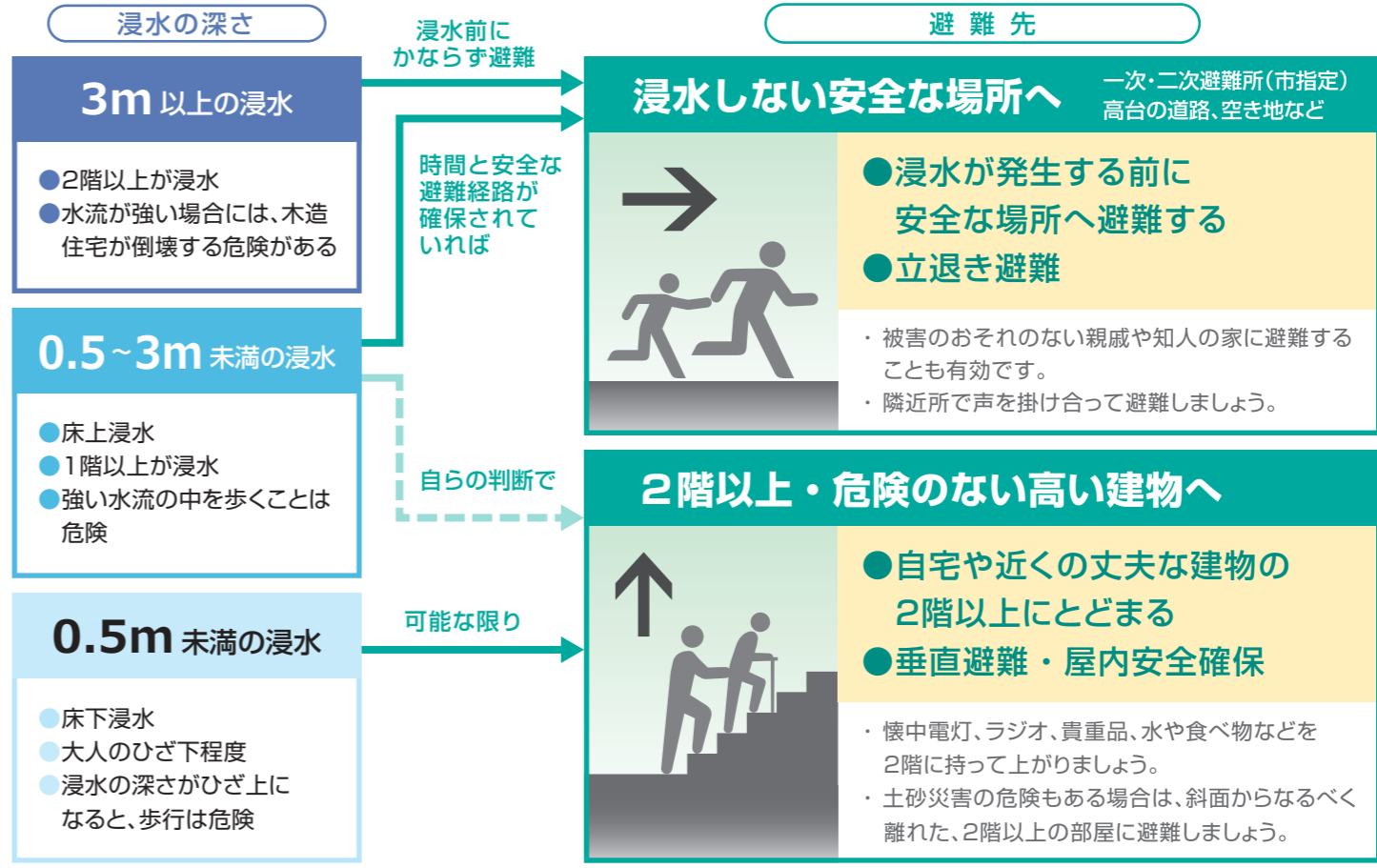
大雨

集中豪雨や長雨、土砂災害や流木などによって、ため池の水位が上昇すると、堤防で漏水が起こったり、越水した水の勢いで堤防が侵食されて、ため池が決壊するおそれがあります。



ため池決壊による浸水の深さを想定した避難の流れ

想定される浸水の深さによって、避難方法は異なります。浸水想定区域が記載された地図で、自分の家で想定される浸水の深さを確認し、避難の方法を考えましょう。



土砂災害や洪水時には、警戒レベルに応じて避難しましょう

ため池決壊の危険性が高まったことによる避難情報の発令を行うことはありません。土砂災害や洪水による危険性の高まりに応じて発令される避難情報を基に、避難行動をとってください。**警戒レベル5**では、すでに災害が発生している状況です。**警戒レベル3**や**警戒レベル4**の段階で、声をかけあって避難しましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
高	5 災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保 ^{*1}
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難！ ~~~~~			
危険度	<b>4</b> 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示 ^{*1}
	<b>3</b> 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難 ^{*1}
	<b>2</b> 気象状況の悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報 ^{*2}
低	<b>1</b> 今後、気象悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 ^{*2}

・警戒レベル5は、市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、必ず発令されるとは限りません。  
 ・警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。  
 ・内閣府/令和元年台風第19号等を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループによる最終とりまとめ(令和2年12月24日公表)を基に記載しているため、表現等は変更になる場合があります。

^{*1} 筑紫野市が発令  
^{*2} 気象庁が発表